

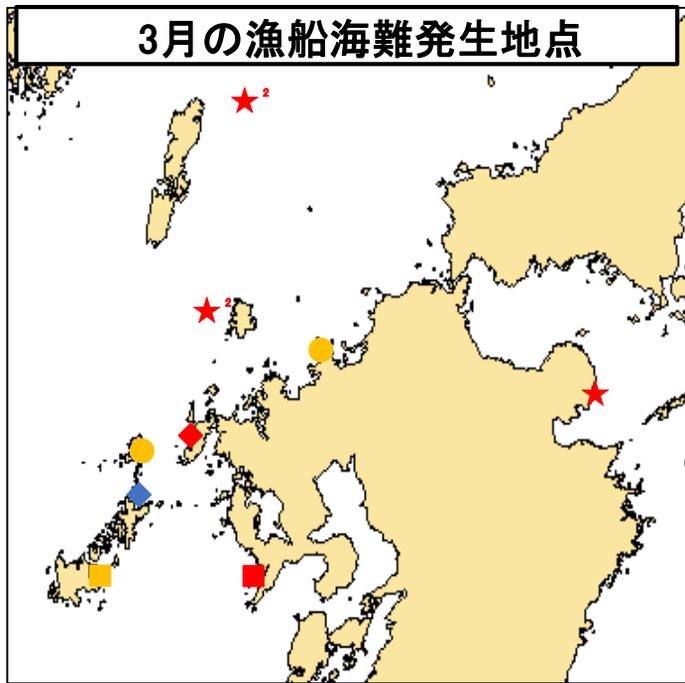
令和5年3月発生  
七管内漁船海難 計11隻

令和5年3月累計 22隻 (前年18隻)  
漁船海難発生隻数は前年に比べ **4隻増加**

漁船海難隻数 (速報値)		
衝突	★	5
乗揚	●	2
運航不能 (機関故障)	■	1
運航不能 (有人漂流)	◆	1
運航不能 (無人漂流)	◇	1
運航不能 (推進器障害)	■	1
合計 11隻 (昨年 4隻) 死亡、行方不明者: 1名		

	県別内訳	
	3月	令和5年累計
山口県	0	0(4)
福岡県	1	3(4)
佐賀県	0	0(3)
長崎県	9	16(6)
大分県	1	3(1)
合計	11隻	22隻 (18隻) ( )は昨年同月

累計死亡・行方不明者数  
1名 (令和5年3月末日現在)



## 3月中 7隻発生! 衝突・乗揚事故多発!

見張りの徹底!

3月は、**衝突・乗揚事故が多発しました。**(衝突5隻・乗揚2隻) 衝突・乗揚事故の原因の約6割は「見張り不十分」によるものです。魚群探知機の使用時や投網作業時等、作業に没頭して見張りが疎かになりがちです。**常時適切な見張りを励行し、衝突・乗揚事故を防ぎましょう。**

**操業中でも気を抜かん!**



居眠りに注意!!

居眠り運航の多くは、操業後の帰港中や自動操舵使用中に発生しています。もし、眠気を感じた時は、「**窓を開けて換気**」「**体を動かす**」などの対策を講じる他、普段から十分睡眠をとり、睡眠不足が生じないように**規則正しい生活習慣**を心掛けましょう。



**居眠りに注意!**



自動操舵使用時は注意!!!

自動操舵装置は、操船の負担を軽減し見張りに専念するためのもので、他船や障害物を避ける機能はありません。自動操舵使用中、他の作業に没頭すれば、見張りが疎かになり、衝突・乗揚事故に繋がります。**自動操舵使用中であっても、常時適切な見張りを行いましょう。**

また、次の場合は、手動操舵に切り替え安全に操船しましょう。

- ①港内 ②船が多い海域 ③荒天、視界不良時
- ④周囲に浅瀬等がある場合 ⑤潮流が強い狭水道 ⑥他船への接近時 ⑦変針時